

「全国学力・学習状況調査」の結果について

全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施している「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。この調査は、文部科学省や教育委員会が全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析、教育政策の成果と課題を検証し、その改善などに役立つことが求められています。この調査は、「教科に関する調査」と、生活習慣や学習環境に関する「質問紙調査」で構成されています。本校では、全教職員で結果の分析を行い、各教科で取り組みについて振り返りを行いました。今年度の分析結果の概要を保護者の皆様にお知らせいたします。

学力の向上におきましては、保護者や地域の皆様と学校とが一体となって取り組んでいくことが大切です。1、2年生を対象に三重県が実施している「みえスタディチェック」や松阪市が実施している「松阪市標準学力調査」の結果も踏まえ、私たち教職員もよりわかる授業への改善をめざして研修に取り組んでいきますので、今後もご協力をお願いいたします。

「教科に関する調査」の結果

【国語】

国語は学習指導要領に示されている、思考力、判断力、表現力を問う問題や言語、情報の扱い方に関する問題が出題されました。スライドを使った話し方の工夫や聞き手の反応を踏まえた話し方の工夫を捉えるとともに、

自分の考えが分かりやすく伝わるように、話す事柄の順序を考えたり、スライドを用いて表現を工夫したりすることが求められました。本校の強みである、「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること」「相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」「表現の効果について、根拠を明確にして考えること」においては、全国の平均正答率を上回り、回答率も高いことが分かりました。国語科で行っているスピーチやそれに伴う発表資料の作成、また各授業でのめあてに対する振り返りへの取り組みの成果と考えられます。しかし、「資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるよう

(工夫の仕方)

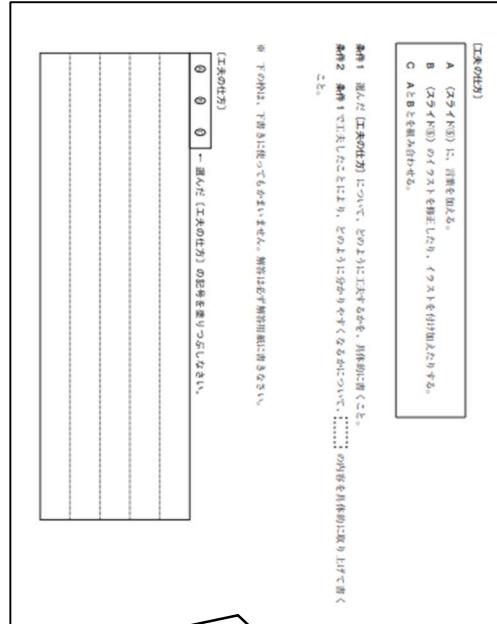
A (スライド等) に、言葉を記入する。
B (スライド等) のイラストを用意したり、イラストを付けたりする。
C AとBとを組み合わせる。

※ 下の例は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず別用紙に書きなさい。

参考1 踏んだ【工夫の仕方】について、どのように工夫するか、具体的に書くこと。
参考2 踏み1で工夫したことにより、どのように分かりやすくなるかについて、…の内容を具体的に取り上げて書くこと。

(工夫の仕方)

○ ○ ○ ← 踏んだ【工夫の仕方】の記号を並べてぶら下さい。



課題 国語 24

本校正答率 13.3% (県正答率 23.2%)

「資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」に課題

に表現を工夫すること」や「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」においては、全国の平均正答率を大きく下回りました。例えば、スピーチにおいては、聞き手の反応を見て自分の考えがより明確に分かりやすくする力はついていますが、既に作成されたものに対して、工夫やその工夫によってどのような効果が出るのかを考え助言することができる力を育んでいく必要があります。また物語文では、2つの文章の展開をふまえて、表現の効果について自分の考えをまとめる問題が出題されました。この設問については、展開の効果はかけているが、2つの文章のつながりに触れておらず、展開がふまえられていないという解答類型が多かったです。文と文、文章と文章など、言葉をつなぐ語句に着目し、文章を読むことが必要だと考えられます。これらに全教科で重点的に取り組んでいきます。無回答率は平均して少ない傾向にあり、あきらめることなく粘り強く取り組んでいることが分かります。しかし、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」の設問については、無回答率が3分の1となっているので、記述式の問題や条件作文についても授業で今まで以上に多く取り入れ重点的に取り組んでいく必要があります。

【数学】

数学は、単純に計算するだけでなく、図や表から成り立つと予想される事柄や事実を見いだし説明したり、根拠を示して事柄が成り立つ理由を説明したりする問題が多く出題されていました。本校は、事柄が常に成り立つとは限らないことの反例を求めたり、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したりする問題について全国の平均正答率を大きく上回りました。日々の授業の中で数学的に理由を説明させる場面設定を多く取り入れるよう意識し、取り組んできた結果だと考えられます。しかし、素数の意味を理解しているかを見る問題や、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求める問題は、全国の平均正答率を下回りました。1は素数に含まれるという解答類型

1 下の1から9までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

課題 数学 1

本校正答率 16.7% (県正答率 31.8%)

事象の特徴を的確に捉えることに課題

が多いことと、知識を問われる問題にもかかわらず無回答率が高いことから、数学用語の確認の機会をつくる必要があります。また、記述式の問題の無回答率は平均して少ない傾向にあります。授業の中で、理由を説明させる場面設定を多く取り入れてきたため、記述することはできているが、必要な数値や数学的な表現を使うことができていないという解答類型が多かったです。数学用語を使って問題解決の方法を説明することができ

るよう、継続して取り組む必要があると考えられます。

【理科】

理科では、知識を問う問題は少なく、主に実験に対する課題の設定や振り返り、根拠や事象から考察する問題が出題されました。たとえば、地層の水が染み出る場所を事象と条件から予測する問題では、全国平均を大きく上回る正答率（全国比+15.4%）となりました。また、疑問に対する課題の記述や振り返りを求める問題でも、それぞれ全国平均を上回る結果となりました（全国比+2.3%、+1.2%）。これは、本校が重視している記述力の育成や、話し合い活動による思考の深化が成果として表れたものと考えられます。

知識を問う問題でも、以下のように高い定着度が見られました。

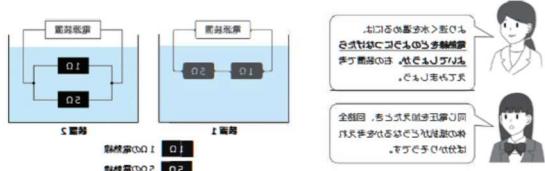
- ・身近な生物で呼吸をするものを選ぶ問題 (+9.0%)
- ・塩素の元素記号を答える問題 (+6.7%)

一方で、以下のような知識を活用する問題では課題が見られました。

- ・直列回路・並列回路における水の温まり方の違いを考える問題 (-19.6%)
- ・ボーリング調査の結果から考察する問題 (-5.1%)

これらは、図や表から情報を読み取り判断する力が十分に育っていないことを示しています。化学変化をモデルで表す問題では好成績を収めていることから、今後は自分たちで表現する力に加えて、他者がまとめた図や資料から情報を読み取り活用する力も育っていく必要があります。そのため、今後も互いの考えを共有しながら読み取る機会を継続的に設けていきたいと考えています。

また、実験時のやけどに対する適切な応急措置を選ぶ問題では、全国平均を大きく下回りました (-9.1%)。今後は、実験における基本操作や安全面について、改めて確認を行っていく必要があります。



課題 理科 I (1)

本校正答率 32.3%（県正答率 53.3%）

知識を結び付けて活用する問題に課題

「質問紙調査」の結果

生徒質問紙は、生活の諸側面や豊かな心の育成に関わること、学習意欲、学習方法、学習環境などの学習に関する質問があります

生活の諸側面や心の育成に関する内容については、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対して、87.1%（全国比+11.8%）の生徒が、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答しています。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」については 96.8%（全国比+5.9%）、「人の役に立つ人間になりたい

と思いますか」については 96.8%（全国比+0.2%）、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」については 100%（全国比+4.1%）と肯定的な回答をした生徒の割合はいずれも高い数値になっています。これからも人権感覚を磨きながら、まわりの人のために行動できる人に成長していってほしいと思います。

学習に関する内容については、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した生徒は 48.4%（全国比+13.3%）になりました。また、「授業や学校生活では、友だちや周りの生徒の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という質問に対しては、61.3%（全国比+15.8%）の生徒が「当てはまる」と回答しています。生徒は意見交換しながら新たな考え方方に気付き、自分の考えを広げ深め、協働的に学ぼうと取り組んでいる姿が見られます。しかし、「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒は 83.9%（全国比-2.3%）、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に対しては 61.3%（全国比-17.9%）となっており、自分に対する自信のなさも見受けられます。自分の考えが、まわりの生徒のより深い理解につながっていることや、ともに学ぶことで自分自身の成長につながっていることが実感できるような学習になるように取り組んでいきたいと思います。家庭学習においては、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」という質問に対して、1時間以上と答えた生徒は 58.1%（全国比-3.5%）、「学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」という質問に対して、2時間以上と答えた生徒は 38.7%（全国比+6.2%）、学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか」という質問に対しては、1時間以上と答えた生徒は 12.9%（全国比-0.8%）となっています。また、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒は 83.8%（全国比+6.3%）となっている一方、「当てはまらない」と回答した生徒は 6.5%（全国比+3.7%）となっています。それぞれの生徒が家庭学習において、自分の学習にふさわしい ICT 機器の活用ができるようにしていくことが必要であると考えられます。学校では宿題等の課題の出題を行っていますが、学校・地域・家庭が一体となって子どもたちのやる気を引き出し、自ら学ぶ姿勢を身に付けて計画的に学習を進め、それが希望する進路を実現できるようにしていってほしいと思います。